国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けて

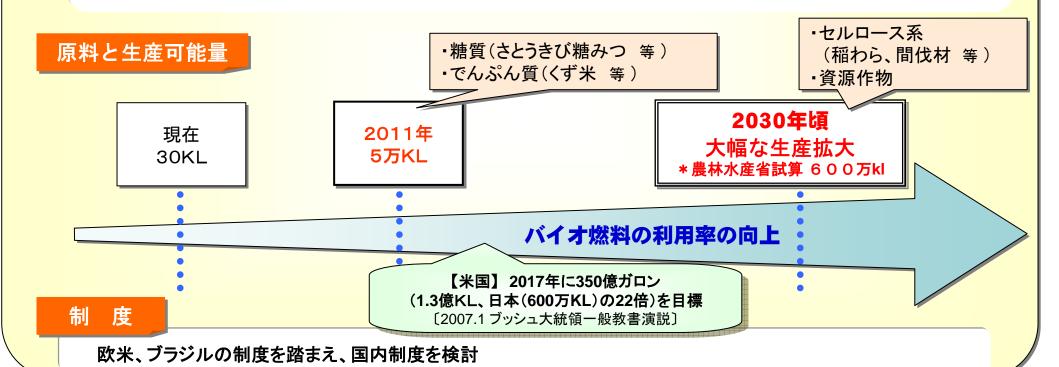
- 総理報告(工程表)のポイント -

技術開発がなされれば2030年頃には国産バイオ燃料の大幅な生産拡大は可能

技術開発の課題と生産可能量

技術開発

- ① 収集・運搬コストの低減 ・・・・・・・・ 山から木を安く下ろす、稲わらを効率よく集める機械等を開発
- ② 資源作物の開発 ・・・・・・・・・・ エタノールを大量に生産できる作物を開発
- ③ エタノール変換効率の向上 ・・・・・・ 稲わらや間伐材などからエタノールを大量に製造する技術を開発



※総理報告は、関係7府省(内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)により取りまとめ

国産バイオ燃料の大幅な生産拡大

当面の取組 国産バイオ燃料元年 H19年度から大規模実証を実施(合計で3.5万KL) サンケアフェーエルス練 珍面填而: 灰城岛 (凍布 北海道バイオエタノール株式会社 (ホクレン、JA道中央会等) エコデス機 設置場所:東京都江戸川区 設置場所:北海道上川郡清水町 (ホクレン清水製糖工場内) 施設能力:1.5万キロリットル/年 設置場所:福井県水平寺町 原 料: てん菜、小麦 施設能力: 750キロリットル。 接着提高 : 福田里斯安町 施設能力: 2,000キロリットル/年 オエノンホールディングス株式会社 珍層場所: 福岡県久留米市 設置場所:北海道苫小牧市 (合同酒精(株)苫小牧工場) 全国農業協同組合連合会 施設能力: 1.5万キロリットル/年 (JA全農) 原料:米 設置場所:新潟県新潟市 (コープケミカル新潟工場内) パイオエタノール地区(3地区) 施設能力: 0.1万キロリットル/年 バイオディーゼル機関地区(5地区) 20年度税制改正要望事項 ○ バイオエタノール混合ガソリン及びバイオディーゼル燃料に係る 軽減措置の創設(揮発油税、軽油引取税等) ○ バイオ燃料の生産及び利用拡大に関する特例措置の創設 (法人税・所得税、固定資産税) 参考 【バイオ燃料の生産コスト】 バイオエタノール BDF(京都市) (糖みつ) 軽油 117円/L ガソリン 144円/L 103円/L 125円/L 120 軽油引取税 ガソリン税 100 軽油引取税 ガソリン税 32.1F9/L 53.8円/L 100 00 32.1円/ 53.8円/L ベイオエタノール・ 90 BDF生産コスト(原 卸価格 料代込み) 卸価格 料代込み) 70.5円// 85円/L 71.6円/L ※ガソリン税53.8円/L =揮発油税48.6円/L +地方道路税5.2円/L、ガプリン・軽油については2007年7-8月の平均価価格 (出典:石油情報センター)

9

中長期的取組

低コスト・高効率なバイオ燃料生産技術の開発

バイオエタノール生産量の飛躍的増加を可能とする 資源作物の育成と低コスト栽培法の開発

さとうきび、テンサイ、バレイショ、カンショ、ソルガムを対象

資源作物の育成

ゲノム情報等を利用した糖・でん粉収量の 増加及び多収品種の育成



バレイショDNAマーカー 選抜



高バイオマス量さとう きび(左)と製糖用品

栽培法の開発

収穫期を拡げる技術、 原料の簡易な貯蔵 技術等の開発



病害虫抵抗性品種の 活用による防除回数 の削減(テンサイ)

エタノールを生産する技術の開発

木質バイオマスや 稲わら等の非食用 資源や、資源作物 全体から高効率に エタノールを生産す る技術の開発



遺伝子組換え 微生物等

国産バイオエタノールの生産コストを10年で現在の半分以下に削減

国民理解のための普及開発の取組

・ バイオマスの利活用が地球温暖化対策や地域活性化につながること 等について、国民の理解を深めるため、様々な活動を実施。



TO ALL PROPERTY OF THE PARTY OF

バイオディーゼル燃料で走る 九州バイオマス発見の旅 〈九州農政局〉





エコフェスタ2007(新潟) 〈北陸農政局〉



農林水産業者とバイオ燃料製造事業者による一体的な取組の推進

○ 農山漁村には、稲わらなどの未利用のバイオマスが豊富に存在→農林水産業者とバイオ



雇用の確保

農村地域の振興

農地の有効活用